

◎ 美術館情報

最新の情報は、各施設の公式ホームページなどでご確認ください。

1. 岐阜県現代陶芸美術館【岐阜・多治見】(<https://www.cpm-gifu.jp/museum/events/event/event-11400>)

9月15日(火)～12月6日(日)

企画展「ヤンソンコレクション受贈記念 ドレスデン ポルツェラン」

ドレスデンはチェコとの国境付近に位置するドイツ ザクセン州の州都で、中世よりエルベ川沿いに発展しました。第二次世界大戦中の空襲によって、市街地は壊滅的な被害を受けましたが、その後多くの人々の努力によってかつての姿に復元されました。現在ではバロック様式の宮殿や教会、オペラハウスが立ち並ぶ芸術と科学の都として、往時の輝きを取り戻しています。ドレスデン ポルツェランは 1872 年にヨハン・ゴットリープ・ティームによって、この地に創業されました。第二次世界大戦後、同窯は政策により国営化されましたが、1990 年の東西ドイツ統一により、再び民営化されました。昨今では工業化や職人不足による影響を受けていることは否めませんが、創業以来、成型から完成までの工程を全て手作業で行っていることが、高く評価されています。岐阜県現代陶芸美術館は令和 7 (2025)年度に、現代に製作されたドレスデン ポルツェランの製品 123 点を受贈しました。これを記念して、本展では、同窯の豪華絢爛なテーブルウェア、シャンデリアをはじめとする室内装飾品を紹介します。



2. 兵庫陶芸美術館【兵庫・丹波篠山】(<https://www.mcart.jp/exhibition/e3803/>)

9月19日(土)～11月23日(月・祝)

特別展 ゲンダイ陶芸*ミニ*クロニクルやきものはアートだ！

土を焼き固めるという意味では、長い歴史を持つやきもの。けれども、自由なかたちを得て、現代アートと同様に多種多様な表現が生まれたのは、じつは戦後から。まだまだ新しいものなのです。その名も「現代陶芸(ゲンダイトウゲイ)」。本展では、特にうつわではない、いわゆる立体作品に注目し、当館の現代陶芸コレクションの中から、各時代を代表する作家の作品を抽出し、緩やかな年代順でご紹介します。「クロニクル」には、「年代順に記録する」というほかにも、「壮大な物語」というような意味もあります。すべての時代を詳細に追うことは叶いませんが、展示を見進めていくうちに、それぞれの時代の潮流や熱気から、陶芸表現の広がりやダイナミズムを体感いただけるのではないのでしょうか。



3. 国立工芸館【石川・金沢】(<https://www.momat.go.jp/craft-museum/exhibitions/570>)

10月9日(金)～2027年1月11日(月・祝)

企画展 デザイン・クロニクル展 なにが生まれて、なにが変わった？

19世紀の急速な工業化は新しい素材や機械による大量生産をもたらしました。それまで職人が手仕事で制作していた物品を新しい素材や生産方式でつくるためには、抜本的な転換が求められました。工芸家たちは試行錯誤を繰り返し、やがて今日「デザイン」と呼ぶものが確立してゆきます。このように、デザインとは近代化によって生じた様々な課題に対応するために工芸から派生した新しいものづくりの考え方です。それはヨーロッパで生まれ、世界中へと広がってゆきました。本展では当館のデザインコレクションを中心に紹介し、19世紀後半のアーツ&クラフツ運動からアール・ヌーヴォーとアール・デコ、そしてバウハウスに代表されるモダニズム・デザイン、さらに第二次大戦後の展開までの100年あまりのデザインの流れをたどります。その歴史を知ると、現在私たちの身の回りにあるデザインを見る視点が広がり、きっとその新たな魅力に気づくことでしょう。

